

京都市在住の親子が発見した日本初記録の淡水魚 和名を『カワウミヘビ』と提唱しました

(一財) 沖縄美ら島財団の研究グループ 学術雑誌「Fauna Ryukyuana」にて発表

一般財団法人 沖縄美ら島財団総合研究センター(沖縄県本部町)の研究グループは、京都市在住の会社員新谷哲也氏とご子息の隼平さんが、名護市源河(げんか)川で採集したウミヘビ科の魚類について、科学的に調査した結果、日本初記録であることを明らかにし、和名「カワウミヘビ」を提唱しました。本種の発見は世界的に珍しく、源河川は世界で生息が記録された6か所目であると同時に、北限記録であることがわかりました。

また、本研究の内容は、学術雑誌「Fauna Ryukyuana」に掲載されました。

■発表雑誌■

雑誌名 : Fauna Ryukyuana (URL: http://w3.u-ryukyu.ac.jp/naruse/lab/Fauna_Ryukyuana.html)

論文題目 : First Japanese record of the Mindoro snake eel *Lamnostoma mindorum*
(Actinopterygii: Anguilliformes: Ophichthidae) from the Ryukyu Islands

発行日 : 2018年3月23日

著者 : 一般財団法人 沖縄美ら島財団総合研究センター 動物研究室 係長 岡慎一郎
職員 花原望
京都市在住 会社員 新谷哲也

■ポイント■

- ・京都市在住の新谷哲也氏とご子息の隼平さんが、2017年6月に名護市源河川で魚類を採集中にウナギ型魚類を発見、捕獲し、自宅で飼育していた。親子からこの魚種の特定と飼育方法について、(一財)沖縄美ら島財団総合研究センター(以下、総合研究センター)に問い合わせがあり、日本では確認例のない魚である可能性が浮上した。
- ・飼育個体が2017年10月に原因不明で突然死したため、標本として総合研究センターに引き渡された。標本の精査の結果、日本初記録のウミヘビ科魚類であることが明らかとなり、採集場所が河川であったことから「カワウミヘビ」の和名を提唱し、論文として発表した。
- ・本種の発見は世界的にも珍しく、源河川は確認された6か所目であると同時に、北限記録でもあった。
※これまでは台湾が北限記録。

*詳細は別添資料をご参照ください。

■代表研究者■

岡 慎一郎(おか しんいちろう):

理学博士。(一財)沖縄美ら島財団総合研究センター 動物研究室係長
専門は水生生物の生活史研究。

<お問い合わせ> 一般財団法人 沖縄美ら島財団 企画広報課 菅間・安里

TEL 0980-48-3649 / FAX 0980-48-3122

※研究内容に関するご質問には、当財団の研究者がお答えします。

【News Release】

＜研究の経緯と概要＞

○発見と飼育

2017年6月、京都市在住の会社員新谷哲也氏とご子息の小学5年生(当時)の隼平さんが、名護市の源河川で魚類を採集していたところ、60センチほどの細長い魚を捕獲しました。衰弱していたため、親子はこのまま放流することを不憫に思い、自宅に持ち帰って飼育していました。しかし魚類の容体は改善せず、対処方法と魚類の正体を知るために(一財)沖縄美ら島財団総合研究センター(以下、総合研究センター)に問い合わせました。当総合研究センターでは、この魚類が主に海に生息する「ウミヘビ科魚類*」であり、見た目や、淡水域で採取された経緯から日本初記録種である可能性があると考えました。その一方、飼育に関しては密に連絡を取り合って対処し、努力の甲斐もあって餌をとるほどにまで回復したものの、約4カ月後の10月末ごろ、原因不明で突然死し、魚類は標本として当総合研究センターに引き渡されました。

***ウミヘビ科魚類**:ウナギ目ウミヘビ科に属する魚類で、熱帯～温帯の主に海域に生息し、日本では約40種が知られている。その名のとおり、爬虫類のヘビに似て細長い体型をしている。沖縄独特の食材とされるエラブウミヘビなどが含まれる爬虫類の「ウミヘビ科」とは全くの別ものである。



飼育中のカワウミヘビ

○標本の精査と論文発表

標本は体型や頭部にある感覚器官の数などの外部形態のほか、CTスキャンを用いて脊椎骨の数を数えるなど、様々な精査を行った結果、この魚は日本初記録のウミヘビ科魚類 *Lamnostoma mindorum* (ラムノストマ・ミンドラム)であることが明らかとなりました。また、本種の生息が正式に記録されている場所は、フィリピンの2カ所、ニューギニアの1カ所、台湾の2カ所のみであり、源河川は6カ所目の発見場所で、かつ本種の北限記録であることが明らかとなりました。

この発見をまとめた論文は、学術雑誌「Fauna Ryukyuana」に掲載されました。当論文で、当魚類をウミヘビ科魚類で初めて「川の淡水域」で確認されたものとして、「カワウミヘビ」の新和名を提唱しました。



標本の写真

○調査研究へのさらなる取り組み

沖縄周辺では近年も多くの新種や国内初記録種が報告されています。これは生物多様性の豊かさの象徴であり、本件のように一般の方々も新しい発見につながるチャンスが十分にあることを示しています。当財団では地域連携を通じた調査研究や環境保全に関する取り組みを推進しております。珍しい生き物を発見した際は、遠慮なくお問い合わせください。可能な限りお応えいたします。